

ながさき 教区報

ナガサキ・キョウクホウ

2024年
秋号

contents

第9回 長崎教区布教大会を終えての所感
長崎教堂の常例法座開座に際して
帰敬式のご案内

第48回 長崎教区保育連盟仏教保育講座

第20回 『平和のつどい』

予算書

宗務連絡事項

第九回長崎教区布教大会を終えての所感

島原北組光専寺 住職 月 孝祐

松尾整子師



二〇二四（令和六年）五月十二日に諫東組 光宗寺様を会場として、第九回長崎教区布教大会が開催されました。諫早地区の近隣の僧侶・ご門徒様だけではなく、教区外のお寺様もご聴聞されました。開式に当たり四月より長崎教区教務所長に任命された邊春真乗教務所長よりご挨拶があり、長崎の今後の布教伝道の在り方や、布教大会に対する取り組み方についてお話がありました。テーマは「伝える伝道」から「伝わる伝道」へというテーマでありました。私たち布教使だけではなく、各寺院においても令和の時代となり、コロナ禍や地域社会の様々な変化の中で、変わりいくものと変わらないもの、親鸞聖人が開かれた浄土真宗のみ教えが開かれて八〇〇年の月日が流れる節目の中で、先立たれた先人たちが親鸞聖人と共に歩まれた御念仏の道を、次の世代にどの様に私たちがバトンを渡していくのが今回のテーマであったような気がします。

月 孝祐師

第一席は、諫早組正源寺、野口哲城師でありました。落ち着



野口哲城師

いた話し方で、時には自らの経験をユーモアを交えながらお取次ぎをしていただきました。第二席は 諫早組真栄寺、松尾整子師でありました。得意の歌を交えながら、自らが阿弥陀様のご法義に出遭えた喜びを感じたままにお取次ぎをしていただきました。第三席では五島組圓長寺、七里円隆師でありました。離島ならではの経験や、自らが飼っていた動物を通じて阿弥陀様とのご縁を分かりやすくお取次ぎしていただきました。

第四席の私の御讃題は、顕浄土真実教行証文類 後序より「いかんとなれば、前に生まれんものは後を導き、後に生まれんものは先を訪へ、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽くさん。さんがためのゆゑなり」と。（注釈版四七四頁）親鸞聖人が道綽禪師『安樂集』のお言葉引用された部分、「後に生まれんものは先を訪え」（訪ねなさい）とは、どのようなお意であったのかを中心にお取次ぎをさせて頂きました。又、方便とは階梯ともいい、『無量寿経』にお示しくくださった「遊歩十歩 行権方便」を通じて、一般的に使われている「嘘も方便」が嘘についても良いという解釈は誤りであり、あくまでも私たちが真実に引き入れるための如来の教えであることをお取次ぎさせて頂きました。

最後に私が今回の長崎教区布教大会のテーマであった「伝える伝道」から「伝わる伝道」へとはこういう事ではないのかと感じたことを述べさせて頂きました。先日、お盆でお参りさせていただいたご門徒さんの家では、お忙しかったのか誰も家にはおられずお布施だけがお仏壇の横に置いてありました。しかしお約束はしていたので早くから冷房だけは入れてありました。私としてはとても快適な中で、お参りさせて頂き有難いと思いましたが、しかしながら何だか寂しい気持ちになりました。ふと、私が学生の頃にお参りさせて



七里円隆師

ただいた一人暮らしのおばあちゃんのことを思い出しました。ご自宅は、冷房も扇風機を有りません。若い私がお参りを始めると、直ぐに後ろにおばあちゃんがかうちわで私を扇ぎながらお参りが終わるまで、ずっと口から御念仏申しながら座っておられました。私は汗だくになりながらも温かい気持ちでおばあちゃんのお家を後にしました。伝わる伝道とは、決して便利さや自分だけの喜びでは何の解決にもならない、温もりや同朋との繋がりの中にこそ阿弥陀様の願い、親鸞聖人の思いが伝わります。昭和から平成の時代に生きられた方は物の豊かさが心の豊かさになると信じ、一生懸命に生きてこられました。しかし、今の現実は決して物の豊かさが心の豊かさとは言えません。だからこそ、先人たちが訪ねながら、真実なる願いに出遭うことが伝わる伝道となるのではないのでしょうか。



長崎教堂の常例法座開座に際して

島原南組 浄源寺 住職 三浦 唯正



昨年十二月から長崎教堂に常例法座が開設され、五月にお取次ぎをさせていただきます。

御存じの通りお寺を取り巻く環境は劇的に変化をしております。大都市への人口流出により地方には後継者となる方がいなくなる傾向です。また残っておられる方も核家族が定着し四十年を経て、家庭内でのお念仏相続が難しくなっています。御同行が高齢化し参詣が困難となられ、一方で若い方へのお声掛けが進んでいない状況が参詣者の減少となっていることは多くのお寺にとって共通の悩みでありましょう。更にはコロナ禍が襲いました。予想していたより十年前倒しして今のお寺の状況があるように思います。

本願寺においても毎夜総会所で営まれていた常例法座はなくなりまして、一般寺院においても御法座の日数や座数が減少しているお寺様もございます。

私が布教使の資格を拝受し二十年の歳月が過ぎました。布教使目線で見てまいりますと、これから布教の現場は大変厳しくなっていくと思えます。若い布教使は出番を欲しても場が得られず、志すことがなくなっていくでしょう。若手が育ちにくい状況は由々しきことです。

私自身、多くの御門徒さんにお育てをいただいたことを大変に感謝しております。半島には若手僧侶の会「龍華会」があります。夏には半島の数ヶ寺が盂蘭盆会を開座されますが、その講師として龍華会員がお取次ぎをします。その法座に向けて各々は研鑽しその場に立ち、うまくいかない時や注意点は先輩が指導し、次に臨みます。よく言われることですが、ひとつの本番が百の練習に勝り、場数が僧侶を育てていくのです。

常例法座の開設は僧侶にも御門徒さんにとりまして得難いご縁です。同時に法座の維持は困難も伴います。

仏法には世間のひまをかきて聞くべし。隙をあけて法をきくべきように思うこと、あさましきなり。

是非のご参詣お待ちしております。

帰敬式のご案内

今年度の長崎教堂報恩講（十一月二十七日～二十八日）にて、「帰敬式」を執り行いました。長崎教区では二〇一九年の長崎教堂寺基移転五十年記念法要以来となります。

帰敬式って？

いつでもどこでも私の命に寄り添ってくださっている阿彌陀如来さま。そのすべてが込められた「南無阿彌陀仏」におまかせし、阿彌陀如来さまとこの命を生きてゆく決意と、その第一歩として「法名」をいただく儀式です。



来年度以降も執り行う予定でございますので、ご興味のある方は長崎教務所または所属寺院までお問い合わせください。

第四十八回 長崎教区保育連盟

仏教保育講座

長崎組教宗寺 小岱 海

二〇二四年六月二十二日二十三から二十三日にかけて、アイランドナガサキで仏教保育講座が開催されました。私にとって、以前長崎教務所で奉職し、保育連盟を担当させていただいたことがありましたので、今回講師としてお招きいただいたことは、非常に嬉しいご縁でした。また、今回は白鳥智明先生と一緒に講



師を務めるといふ楽しみもありました。白鳥先生とは、二〇一六年の「九州地区保育研修長崎大会」で講師としてお越しいただいた以来、八年ぶりの再会となりました。講師としてお話をする機会をいただいたことは嬉しい反面、何をお伝えすべきか非常に悩みました。当初、私が若者との関わりの中で経験したエピソードをもとに、

「ご法話をさせていただこうと考え、準備を進めていました。しかし、近年様々なメディアで「性教育」にスポットがあてられる一方、現場の先生方が対応に頭を悩ませている現状を受け、仏教的な視点からも性教育について考える機会を設けることが重要だと感じました。

私は教育学部を卒業し、保育士免許も取得しましたが、これまで学校で性教育について深く学んだ記憶はあまりありません。しかし、実際に保育現場に出てみると、子どもに胸をさわられる、下品な言葉を言わ



白鳥智明師

れる、といったときにも、「子どもたちになにをどのように伝えるべきか」「ダメと注意していいのかな？」など、どのように性に関する問題に対応すべきか悩む場面が多々ありました。

性教育と聞くと、第二次性徴や生理現象、妊娠、避妊、性感染症などをイメージする方がほとんどだと思います。しかしユネスコが出している「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」では、性教育で本来学ぶべき範囲はもっと広く、「性的同意」「性被害」「ジェンダー理解」など、健康教育以外にも「安全教育」「人権教育」に基づくテーマも含めて構成されています。

実際に性教育認定講師・思春期保健相談士として活動し、現場の多くの悩みや苦勞を聞く中で、先生方が現場で性教育のきっかけとなるシーンの紹介をさせていただきました。

日々の保育で活用できる内容があれば幸いです。

講座の後半では白鳥先生の歌とご法話をお聴聞いたしました。歌手になったきっかけや、ご自身の病気の話をお聞かせいただき、お話のあいだに挟まれる優しい歌声に会場が包まれました。特に先生の病気についてのお話や、それに対するお考えは、涙なしには聞けないものでした。病気を通して感じる、仏様のお慈悲のお話は、多くの参加者の心を揺さぶるものだったと思います。白鳥先生が「どうして肺の病気なんだろう」と呟かれた言葉が特に印象的で、それでも歌を通して仏様の教えを伝え続けたいとおっしゃる姿に、勇気をいただきました。

二日目は、明教保育園の片山量海先生をコーディネーターとして、白鳥先生と共にパネルディスカッションを行いました。「まことの保育」の具体例についてディスカッションする中で、「これをやっているからまことの保育ができている!」「これができないとまことの保育の実践とは言えない」といった特定の行為や方法を指すのではなく、先生方一人ひとりが日々子どもたちと関わり合い、保育する中で自然に見えてくる姿がすでにまことの保育の実践なのではないだろうか。と感じました。仏様に手を合わせる姿は言うまでもなく、たった一言の言葉かけであっても、子どもたちに向けられる

笑顔であっても、安心できる雰囲気であっても…。先生方が作ってくださる何気ない日常の保育で、子どもたちが大切にされ、ともに生き、ともに育ちあう環境のもと育まれていくことこそ、まことの保育なのかもしれません。

白鳥先生が娘さんとのエピソードをご紹介くださいました。「娘が帰省した時に、卒園したお寺の保育園の前を通ったら、先生が娘を見つけて「おかえりー!!」と声をかけてくれました。たつたそれだけで、「おかえりって言うていくれる人がいるんだ、帰ってきたことをよるこんでくれるんだ」って親子で嬉しくなっただけです」と、その瞬間の喜びを語ってくださったことが印象に残っています。

まことの保育のなかで育った子どもたちは、たくさんの方々に愛情をいただき、他の多くのいのちに支えられ、そのおかげで生かされて生きていくことに、やがて気づく日が来るのかもしれない。そんなことを思った研修会でした。



小岱 海師

第二十回 『平和のつどい』

「全戦没者追悼法要に寄せて」

浄土真宗本願寺派仏教青年連盟中央委員長



長崎教区仏教青年連盟

近藤 翔真

本年も本願寺長崎教堂において、八月八日に長崎教区『平和のつどい』が開催されました。

十四時の開会を前に会場受付を

済ませると、すぐさまアナウ

ンスが聞こえてきます。どう

やら御講師を乗せる飛行機が

雷雨の影響で飛べるか飛べな

いかわからない状況とのこと

と。この日を心待ちにしてい

た私は、心のざわつきが止ま

りませんでした。そのような

中で『正信念仏偈』をお勤め

後ほど、御講師は無事に会場

までたどり着くことができました

した。

今年の御講師は認定NP

O 法人 Dialogue for People

副代表であり、フォトジャー

ナリストの安田菜津紀先生。

現在、東南アジア、中東、ア

フリカ、日本国内で難民や貧

困、災害の取材を進めておら

れ、東日本大震災以降は陸前

高田市を中心に、被災地を記

録し続けています。本公演で

も『紛争地、被災地に生きる

人々の声」取材から見えてきたこ

と〜』というテーマで、取材され

てきた写真の数々を解説いただき

ました。

まさに東日本大震災の取材の解

説の最中、宮崎県で地震が発生

各々の携帯から一斉に鳴り響く緊

急地震速報。「あの日」の記憶が鮮

明に蘇ります。ちょうどこの原稿

を書いている九月十一日も多くの

人の人生を大きく変えてしまった

「あの日」であると深く思い知らさ

れます。

講演の中で特に印象に残ってい

る数枚の写真があります。東日本

大震災当時小学生だった方の家族

写真です。中学校入学・高校入学

と節目節目にその家族写真は撮ら

れたのですが、写真では共通して

恥ずかしそうに足を曲げているの

です。ここにジャーナリズムの真

髄を見たと同時に「あの日」から

人生はそれでも続いていくのだと

教えられたような気がします。

来年、原爆投下から八十年、終

戦から八十年という節目を迎えま

す。この節目という言葉にも少し

違和感を覚えつつも、原爆投下と

いう想像に絶する経験をされた

方々が少なくなってきたのも

現実です。今でこそ私が暮らし、

呼吸をしている長崎市は、七十九

年前は瓦礫の山だったのだと、そ

して今この瞬間にも命を脅かされ

をあらためて認識した追悼法要と

記念講演でした。「あの日」から世

の中は本当に平和だったのか？と

問い直す転換点に来ているのだと

私は思います。ガザの少女が安田

先生に伝えた「大きい人たちにこ

んなことはやめるように伝えて」。

「大きい人たち」に無関心を無意識

に続けてしまう私たちは少しずつ

近づいていってしまっているのか

もしれません。

講演が終了し、御講師書籍を手

に西日に照らされ始めている境内

に出てみると子どもたちがポップ

コーンやかき氷を手に笑い合っ

ています。この光景を目に

した私にとって思い返す

八月八日はとても平和で

幸せに満ちたものです。

この子どもたちにとって

も、五十年、百年先もそ

うであるように私たちは

平和を築き続けなければ

なりません。私たちには

できます。「戦後」とい

う言葉を八十年使い続

「いかなる生物生類であっても、

怯えているものでも強剛なもので

も、悉く、長いものでも、大きな

ものでも、中くらいのものでも、

短いものでも、微細なものでも、

粗大なものでも、目に見えるもの

でも、見えないものでも、遠くに

住むものでも、近くに住むもので

も、すでに生まれたものでも、こ

れから生まれようと欲するもので

も、一切の生きとし生けるものは

幸せであれ」

(中村元 訳「ブツダのことば」

スッタニパータ」岩波書店)



2024（令和6）年度 長崎教区 予算書

長崎教区一般会計予算歳入

款項	費目	2024(令和6)年度予算	2023(令和5)年度予算	対比△減	説明
1	教区賦課金	21,600,000	22,000,000	△400,000	
2	宗派交付金	14,127,000	13,917,000	210,000	教化助成費、教区事務費ほか
3	懇志	200,000	200,000	0	ご仏前〈平和のつどい等〉ほか（教区収納分）
4	願記手数料	500,000	500,000	0	申請書・願記冥加金
5	各種参加費	2,720,000	2,720,000	0	勤式指導所会費、得度講習会、研修会参加費（総代門徒幹部研修会等）ほか
6	雑収入	643,000	643,000	0	コピー機等使用料、利息、伝達御礼ほか
7	回付金	10,000	10,000	0	(特)長崎教区平衡資金会計(歳出)1款1項教区一般会計回付金より
8	繰入金	1,100,000	0	1,100,000	費目新設
9	前年度繰越金	4,500,000	4,000,000	500,000	
	歳入合計	45,400,000	43,990,000	1,410,000	

長崎教区一般会計予算歳出

款項	費目	2024(令和6)年度予算	2023(令和5)年度予算	対比△減	説明
1	実践運動推進費	8,277,000	7,667,000	610,000	実践運動関係費ほか
2	社会福祉事業費	15,000	15,000	0	矯正事業講演会費、社会福祉推進協議会費
3	会議費	1,270,000	890,000	380,000	教区会費、常備会費、組長会費、諸会合費
4	宗会議員選挙事務費	120,000	10,000	110,000	
5	教務所事務費	4,800,000	4,700,000	100,000	通信費、事務機器費、印刷・消耗費、備品費、出張費、デジタル関係費ほか
6	回付金	30,000,000	27,000,000	3,000,000	各会計へ回金（教堂一般会計、退職積立・平衡資金等）
7	予備費	918,000	3,708,000	△2,790,000	
	歳出合計	45,400,000	43,990,000	1,410,000	

歳入合計	45,400,000
歳出合計	45,400,000
差引剰余	0

長崎教区教務所・本願寺長崎教堂 職員職務分担

2024(令和6)年10月1日現在

名前	職階	職務分担				
		教区		教化団体等	教堂	一般・その他
		教区事務	実践運動			
邊春 真乗	教務所長 主管	全般 得度考査	全般	全般	全般	長崎刑務所教誨師 自鳴会関係
木山 響心	事務職員 一般職員	宗費関係 教区費関係 教区会・常備会関係(補佐) 慶弔関係 免物取扱 特殊・一般願記関係 終戦80年追悼法要関係(全体会・常任・総務)	全体会 社会対応部 (千鳥・平和のつどい等) 第5連区職員研修協議会 青少年部 補佐 (子ども・若者ご縁づくり)	保育連盟関係 仏青連盟関係 矯正教化連盟関係 社推進協関係 更生保護事業協会関係 仏教少年連盟関係 補佐	法要行事(常例法座) 法要行事(平和のつどい) 法要行事(教堂報恩講)補佐 庶務全般・荘厳(仏花等) 団体参拝関係(教堂参拝) 仏前結婚式	解宗連(同和関係)
永井 正範	嘱託職員 (常勤)	教区会・常備会関係 護持口数調整委員会関係 組長会関係 寺院振興対策関係 選挙管理委員会関係 得度講習会・得度考査(筆記・動式) 総局巡回関係 災害対策関係・たすけあい運動募金 備品管理(台帳等) 慶弔関係 動式練習関係 終戦80年追悼法要関係(所務・法式)	研修部 (教学布教研修会)	布教団関係 仏婦連盟関係	法要行事(教堂報恩講) 責任役員・総代関係 財産管理関係 営繕管理 本願寺参与関係 庶務全般・荘厳(仏花等)	防火管理者 自鳴会関係
中間 聖	嘱託職員 (常勤)	褒賞・褒章関係 慶弔関係 免物取扱 特殊・一般願記関係 終戦80年追悼法要関係(行事)	青少年部 (子ども・若者ご縁づくり)	仏教少年連盟関係 スカウトクラブ関係	出版物販売関係	
藤海 美紀	嘱託職員 (非常勤)	財務出納関係 諸懇志収納関係 願記等冥加収納関係 文書收受・庶務全般			財務出納関係 諸懇志収納関係 出版物管理・取扱関係	職員福利厚生 給与関係
木山 広勝	嘱託職員 (非常勤)	文書收受・庶務全般 慶弔関係 免物取扱 一般願記関係 行事日程管理・報告 終戦80年追悼法要関係(広報)	研修部 (門徒総代幹部研修会) 広報伝道部 (教区報発刊)	仏壯連盟関係 ピハラー関係 門徒総代会関係 門徒推進員関係 組連研関係	庶務全般・荘厳(仏花等) 行事日程管理・報告	中仏通信教育関係
宮崎きく代	臨時勤務員 (非常勤)	文書收受・庶務全般			庶務全般 建物・境内維持清掃	
山崎 阿恭	臨時勤務員 (非常勤)	文書收受・庶務全般		保育連盟関係 補佐	出版物販売関係 補佐 庶務全般・荘厳(仏花等)	

任期満了に伴う新役員の紹介 [順不同・敬称略](2024(令和6)年度改選)

教区会

議長 長崎組 浄真寺 藤川 秀昭

副議長 平戸組 正福寺 福田 敏幸

僧侶議員

長崎組 光源寺 楠 直也
長崎西組 西教寺 藤 大悟
佐世保組 善定寺 小野 純真
平戸組 浄念寺 梅谷 明生
五島組 元海寺 七里 朋暁
諫早組 真楽寺 木山 真英
諫東組 浄真寺 藤川 秀昭
島原西組 常光寺 園城 慈生
島原南組 勝光寺 菊池 敬
島原北組 圓福寺 瑞穂 真爾

門徒議員

長崎組 光源寺 鈴木 秀樹
長崎西組 西教寺 高柳 久雄
佐世保組 教法寺 桑原 俊之
平戸組 正福寺 福田 敏幸
五島組 元海寺 川口 益雄
諫早組 真楽寺 早田 栄一郎
諫東組 稱念寺 徳永 秋男
島原西組 光泉寺 川野 浩三
島原南組 松音寺 馬渡 光春
島原北組 光明寺 前田 和徳

組長会

組長代表 諫東組 西圓寺 山口 文雄

組長

長崎組 深崇寺 加藤 元
長崎西組 了願寺 加藤 心樹
教宗組 教宗寺 大財 義俊
平戸組 風香寺 幾世 知也
五島組 明覚寺 護山 義明
諫早組 教法寺 秀山 知之
諫東組 西圓寺 山口 文雄
島原西組 真藏寺 立花 英之
島原南組 妙行寺 三隅 智城
島原北組 教円寺 藤田 良純

副組長

長崎組 大光寺 三浦 晃
西勝寺 長井 泰雄
長崎西組 西教寺 岸 宏宴
佐世保組 阿弥陀寺 原田 恒彰
正法寺 藤雄 法昭
平戸組 光福寺 佐々木 高信
五島組 大雄寺 佐藤 聖峰
諫早組 西林寺 貞包 啓雄
普通寺 山口 秀雄
諫東組 蓮行寺 藤海 暁成
島原西組 真乘寺 芳澤 十方
島原南組 安養寺 菊池 文雄
島原北組 光専寺 月 孝祐

勤式

指導員 諫早組 西明寺 町田 秀映

指導員補佐

諫早組 静行寺 高 恵寿

実践運動

委員長 諫早組 真楽寺 木山 真英

副委員長

諫東組 光宗寺 楠原智 佐利
佐世保組 妙行寺 園田 祥隆

常任委員

諫東組 浄真寺 藤川 秀昭
島原北組 顕正寺 八洲 秀賢(中央委員)
諫東組 西圓寺 山口 文雄
平戸組 正福寺 福田 敏幸
佐世保組 明照寺 末永 宗平(研修部長)
諫早組 真楽寺 木山 景星(広報伝道部長)
諫早組 西明寺 西崎 智英(社会対応部長)
諫早組 西明寺 町田 秀映

組重点プロジェクト

リーダー
長崎組 西明寺 町田 義昭
長崎西組 金徳寺 水上 恵
佐世保組 善定寺 小野 真世
平戸組 浄念寺 梅谷 明生
五島組 圓長寺 七里 円隆
諫早組 普同寺 山口 秀雄
諫東組 光宗寺 楠原智 佐利
島原西組 楽常寺 立花 慈光
島原南組 静雲寺 平 祐真
島原北組 正覚寺 隈部 徹龍

サブリーダー

長崎西組 唯念寺 加藤 大城
佐世保組 西浄寺 古峨 正法
島原西組 光泉寺 桑戸 大斗
島原南組 浄源寺 三浦 唯正

総代常任委員会

代表 長崎組 教宗寺 井手尾 弘

副代表

島原西組 光泉寺 川野 浩三

委員

長崎西組 了願寺 平田 勝
佐世保組 明照寺 山本 清和
平戸組 風香寺 品川 猶太郎
五島組 明覚寺 中谷 功
諫早組 教法寺 池田 光利
諫東組 稱念寺 徳永 秋男
島原南組 松音寺 馬渡 光春
島原北組 顕正寺 熊崎 憲正

ピハラー長崎

代表 島原南組 浄源寺 三浦 唯正

副代表

島原北組 正覚寺 藤野 幸徳
島原北組 光専寺 月 孝祐

保育連盟

委員長 長崎組 教宗寺 小岱かおり

副委員長

諫早組 明教寺 片山 量海
島原西組 楽常寺 立花 慈光

仏教少年連盟

委員長 佐世保組 善定寺 小野 真世

副委員長

島原北組 圓福寺 瑞穂 恒河
諫早組 真楽寺 木山 景星

仏教青年連盟

委員長 長崎西組 金徳寺 水上 恵

副委員長

佐世保組 金照寺 小西 一哉
島原北組 浄教寺 柳堂 應基

中央委員長

教区仏青所属 近藤 翔真

仏教婦人会連盟

委員長 佐世保組 妙行寺 山口美弥子

副委員長

佐世保組 善定寺 成尾 康子
佐世保組 稱念寺 増山 増子

布教団

副団長 諫早組 桃原寺 緒方 正親

幹事

島原南組 浄源寺 三浦 唯正

青年代表

佐世保組 明照寺 末永 宗平

2024(令和6)年度行事予定

教堂・教区行事

○本願寺長崎教堂常例法座

2024(令和6)年12月16日(月)

2025(令和7)年2月14日(金)

2025(令和7)年3月14日(金)

※11月、1月は休座いたします。ご講師の詳細等は、チラシ、長崎教区HP、Instagram等ご覧ください。

○本願寺長崎教堂報恩講

2024(令和6)年11月27日(水)～28日(木)

○門徒総代幹部研修会【矢太楼】

2025(令和7)年2月18日(火)～19日(水)

婦人会連盟

○第3回仏婦入門講座

2024(令和6)11月15日(金)

○寺族婦人・代表者研修会

2025(令和7)年2月25日(火)～26日(水)

壮年会連盟

○第2回仏教壮年研修会

2025(令和7)年2月8日(土) ※予定

少年連盟

○仏の子どものつどい

2024(令和6)年12月25日(水)

青年連盟

○みのりこう(聞法会)

2024(令和6)年11月15日(金)

保育連盟

○主任保育士研修会

2024(令和6)11月6日(水)

布教団

○差別人権研修会

2024(令和6)年11月18日(月)

○『口伝鈔』を読む会

2024(令和6)11月1日(金)

2025(令和7)年2月17日(月)

ビハーラ長崎

○第4回ビハーラ研修会

2024(令和6)年12月2日(月)

九州行事

○九州地区仏青連盟リーダー研修会【宮崎教区】

2025(令和7)年1月25日(土)

○第5連区布教使研修会【佐賀教区】

2025(令和7)年2月27日(木)～28日(金)

2024(令和6)年10月1日より、臨時職員として奉職させていただいております、諫早組光正寺衆徒の山崎 阿恭(やまさき あすみ)と申します。

大学卒業後、3年間保育士として働いておりましたが、自坊に戻ることになり、1年間中央仏教学院の方で学ばさせていただきました。そして、この度ご縁があり、長崎教区教務所・本願寺長崎教堂でお世話になることとなりました。さらに、たくさんの方の事を学ばさせていただきたいと思っております。

はじめは不慣れな点があり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導くださいますようお願い申し上げます。



山崎 阿恭

新任の挨拶

住職継職

諫早組 西林寺

前任職 貞包 俊雄 様
(六月十三日 往生)

新任職 貞包 啓雄 様

二〇二四(令和六)年九月五日就任

敬弔

生前の御苦勞を偲び、謹んで
お悔やみ申しあげます。

諫早組 普同寺 前坊守

山口 智子 様(七十六歳)

二〇二四(令和六)年四月二十七日往生

佐世保組 照光寺 坊守

田中喜代子 様(七十七歳)

二〇二四(令和六)年六月五日往生

諫早組 西林寺 住職

貞包 俊雄 様(八十七歳)

二〇二四(令和六)年六月十三日往生

Follow Me!



HONGWANJI.NAGASAKI

Instagram

はじめてます!!

編集・発行

「御同朋の社会をめざす運動
(実践運動)」
長崎教区委員会
記事についてのご意見、
ご要望、送付部数のご希望
は長崎教区教務所まで。



教区 H.P.
QR コード